様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２２年　６月１４日現在

研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2007～2009
課題番号：19520147
研究課題名（和文）　中世後期内陸地域における真言宗寺院の学問状況についての基礎的研究

研究課題名（英文）　Research on study situation of shingonshu-temple in inland region of latter term of the Middle Ages

研究代表者
渡邉　匡一（WATANABE　KYOUICHI）
信州大学・人文学部・准教授
研究者番号：40306098

研究成果の概要（和文）：中世後期内陸地域における真言宗寺院の学問状況は、下野国を中心に展開したことが、より明らかとなった。端緒となったのは、醍醐寺乗琳院の俊海の活動である。また、大量の次第からは、さらに広い交流関係が窺い知れる可能性が見いだされた。

研究成果の概要（英文）：The study situation of the shingonshu-temple in the inland region of the latter term of the Middle Ages having developed mainly Shimotsuke-no-kuni became clearer. It is an activity of “Shunkai” to live in Daigo-ji-jorinin Temple becoming the beginning. Moreover, the possibility that the wide-ranging exchange between Shingonshu-temples was able to be confirmed was found by quantities of “Shidai-books”.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2007 年度	2,000,000	600,000	2,600,000
2008 年度	900,000	270,000	1,170,000
2009 年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総　計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：文学・日本文学
キーワード：佛法紹隆寺，宝聚院，新義真言宗，次第

１．研究開始当初の背景
（１）研究開始当初の背景
　寺院の典籍調査・研究としては、国語学を中心とした高山寺典籍文書綜合調査団による高山寺（京都市）、青蓮院（京都市）などの調査・研究に始まり、国文学研究資料館による西教寺（滋賀県大津市）、善通寺（香川県善通寺市）、輪王寺（日光市）などの調査・研究、大阪大学による河内金剛寺（河内長野市）、随心院（京都市）の調査・研究、名古屋大学を中心とする仁和寺（京都市）、真福寺（名古屋市）の調査・研究などが挙げられる。これらの調査・研究により見出された新資料、経典・和歌・物語などの注釈書は、中世文学研究に新たな領域を作り出し、研究方法の方向性を変えるほどの影響力を持った。代表者も、国文学研究資料館による善通寺調査に関わり、研究成果として、「善通寺蔵『秘

密源底口訣』紹介と翻刻」（『善通寺教学振興会紀要』 善通寺教学振興会 1999年2月）を提出している。また、国文学研究資料館客員助教授（2004～2005年度）として、善通寺所蔵典籍の形成過程の分析を担当し、「光国関係資料から見る善通寺蔵書形成の一齣」（『古典形成の基盤としての中世資料の研究』 国文学研究資料館 2006年3月）を提出している。

代表者は、諸宗派の本山寺院の調査・研究に関わる一方で、地域寺院に注目し、奥州岩城を中心に活動した浄土宗名越派寺院の調査・研究を行ってきた。科学研究費補助金「中世末期浄土寺院における学問の研究―良定の著書を通して―」（奨励研究（A）・平成11～12年度）、「中世浄土宗寺院における学問形成についての基礎的研究」（基盤研究（C）（２）・平成14～17年度）を受け、新資料『三語集』や名越派の書物の独自性を明らかにすることによって、中世、岩城における浄土宗寺院の学問状況が、中央（都）に匹敵する水準にあったことを論証した。研究成果として、「如来寺蔵『三語集』について―浄土宗名越派の説草集―」（『説話文学研究』37 説話文学会 2002年6月）、「袋中の本箱」（『説話文学研究』38 説話文学会 2003年6月）、『中世浄土宗寺院における学問形成についての基礎的研究』（平成14～17年度科学研究費補助金研究成果報告書 2006年6月 私家版）などを提出している。

本研究も寺院の典籍調査・研究の一翼を担うものであるが、①対象を地域寺院の典籍に定め、②地域寺院間の交流による書物（知識）の伝播によってもたらされる学問状況を明らかにし、新たな地域像を見出すところに特徴がある。

（２）着想に至った経緯

代表者は、地域寺院の典籍調査・研究として、いわき明星大学（福島県いわき市）在職時（1998～2002年）より、中世から近世期、応酬岩城における真言宗の潅頂道場、談義所であった宝聚院（いわき市西小川）の典籍調査・研究を行っている（1999年9月～）。

当初、宝聚院の典籍は、醍醐寺（京都府）、高野山（和歌山県）、根来寺（和歌山県）など、真言宗の有力寺院から伝播した書物で形成されていると予想しており、実際、醍醐寺光明心院院主弘鑁（1362～1426）自筆本や、高野山無量光院印融（1435～1519）著『二十四帖』の現存最古本など、重要典籍が確認された。しかし、調査・研究が進展するに従い、それとは別に、信州諏訪に所在する佛法紹隆寺や諏訪上社神宮寺との交流が、次第に明らかとなっていった。地域寺院における典籍の集積、学問環境の形成には、有力寺院との関わりとともに、他地域の寺院との交流（ネットワーク）が重要な役割を担っていたのである。

代表者が信州大学に赴任し、佛法紹隆寺の典籍調査・研究を行うに至って（2003年5月～）、他地域寺院との交流という問題は、さらに重要性を増すことになった。諏訪地方における真言宗の潅頂道場、談義所であった佛法紹隆寺は、醍醐寺無量寿院流（松橋流）を本山としていたが、現段階で確認できる限り、醍醐寺から直接伝播された書物はごく僅かである。その多くは、下野国能延寺（栃木県宇都宮市）を筆頭に、下野・上野国の諸寺院で書写されたものであり、奥州岩城や駿河国の諸寺院から伝播したものである。今後、と調査の進展によって、さらに新たな交流が見出される可能性は高い。また、仏法紹隆寺には、仏典以外にも、『沙石集』（南北朝時代後期～室町時代初期写）、『歌行詩』（室町時代後期）などの文学資料が多く残されており、これらの書物も、地域寺院間の交流によって伝来したと考えられる。

中世における内陸地域の真言宗寺院の学問状況を、他地域寺院との交流による書物（知識）の伝播によって明らかにし、新たな地域像を見出すという研究方法は、仏法紹隆寺の典籍調査・研究を進めていく中で、着想されたのである。

代表者は、この研究方法の可能性を、「仏法紹隆寺覚え書き」（『内陸文化研究』3号 信州大学人文学部 2004年2月）、「法の道を伝える僧侶たち―佛法寺七世俊円の書写本を中心に―」（『佛法紹隆寺開創千二百年記念誌』佛法紹隆寺 2006年11月）として提出した。さらに、地域資料学としての展望を、中世文学会学会創設 50 周年記念大会シンポジウム「中世文学研究の過去・現在・未来」（2005年5月29日）、第一分科会「中世文学と資料学」において、「地域寺院と資料学」の題目で発表している。成果は、『中世文学研究は日本文化を解明できるか 中世文学会創設 50 周年記念シンポジウム「中世文学研究の過去・現在・未来」の記録』（笠間書院 2006年10月）に掲載された。

２．研究の目的

本研究は、長野県諏訪地方における真言宗の灌頂道場、仏法紹隆寺（長野県諏訪市四賀桑原）所蔵の聖教調査を行うことにより、中世後期、京都、尾張・関東・東北地方をつなぐ内陸地域において、知識や学問がどのように形成されていったかを明らかにすることを目的とする。併せて、福島県岩城地方の灌頂道場、宝聚院（福島県いわき市西小川）所

蔵の聖教調査を並行して行うことにより、中世後期、真言宗寺院における、内陸地域から東北にかける知識の伝播、学問状況を明らかにすることを目的とする。近年、日本文学の分野でも寺院の調査・研究が注目されているが、多くの調査は各宗派の本山など、大寺院の宗教言説を対象としている。これに対して、本研究は、地域の寺院に注目し、地域間での書籍の伝播、僧侶の交流の実態を調査・研究することにより、地域寺院における学問状況を明らかにし、あらたな地域像の可能性を探るころに特色・独創性がある。また、内陸から東北にかけての地域間の交流を具体的に検証するところにも特色・独創性がある。

また、本研究の結果としては、仏法紹隆寺の聖教が、本山などの大寺院から持ち込まれた典籍によって形成されたのではなく、内陸・北関東・東北地方から伝播した典籍によって形成されていったことが明らかになることが予想される。この結果は、「中央から地方への単線的な知識の伝播（享受）」といった従来の認識を覆す意義を持つ。「地域の時代」と言われる今日、本研究は、日本文学分野における地域資料学の新しいモデルを提起するものでもある。

３．研究の方法

仏法紹隆寺所蔵の聖教調査を行うことにより、仏法紹隆寺に所蔵される書物群が、どこから、誰によって運び込まれ集積されていったかを、書誌・画像データをもとに解析し、知識・学問形成のあり方を考察する。また、宝聚院、能延寺所蔵の聖教調査を並行して行い、両寺院・地域間を行き来した書物や僧侶を追跡し、内陸地域から東北にかける知識の伝播、学問状況を明らかにする。具体的には、以下の通りに調査・研究を行った。

(1)2007 年度

①佛法紹隆寺調査：4/14・15，5/12・13，6/9・10，7/7・8，9/6・7，10/13・14，11/17・18，12/15・16，1/12・13，2/9・10，3/8・9

2731 点の書肆カードを取り終わった。また、200 点のデータ見直し作業を終えた。さらに、スキャナによって、『歌行詩』、『沙石集』などの画像データを収集した。

②宝聚院調査：4/ 7 ・8，5/3－5，7/14・15，9/1・2，11/2－4，3/1，2

1500 点の書肆データ見直し作業を終えた。また、6/9・10，8/1－5，10/5－7，2/2・3 に如来寺(福島県いわき市)において真言宗関係資料の調査を行った。

③能延寺：能延寺所蔵典籍の確認作業を行った。

(2)2008 年度

①佛法紹隆寺調査：4/12・13，5/10・11，6/14・15，7/12・13，9/13・14，10/18・19，12/20・21，1/10・11，2/21・22，3/14・15

700 点のデータ見直し作業を行った。また、『大般若経』600 巻のデータ収集を終えた。

②宝聚院調査：5/3－5，7/19・20、8/30・31，1/24・25，3/8/9

書肆データの見直し作業を行った。また、6/21・22，8/1－5，10/4・5，2/7・8 に、如来寺において真言宗関係資料の調査を行った。

③能延寺：能延寺所蔵典籍の確認作業を行った。

(3)2009 年度

①佛法紹隆寺調査：4/11・12，5/9・10，6/13・14，7/11・12，9/12・13，10/10・11，12/19・20，2/13・14，3/6・7

1300 点のデータ見直しを行った。

②宝聚院調査：5/16・17，7/11・12，9/5・6，10/31・11/1，3/14

書肆データの見直し作業、分類のための整理作業を行った。また、6/20・21，8/1－5，10/3・4，11/28・29，1/9・10 に如来寺において、真言宗関係資料の調査を行った。

③能延寺：能延寺所蔵典籍の確認作業を行った。

４．研究成果

佛法紹隆寺を中心とした典籍の調査・研究は順調に進み、各寺院の書物の目録はほぼ完成、佛法紹隆寺と下野・上野国、磐城国の寺院との密接な関係が具体的に明らかになるとともに、画像データの公開も 2009 年度末から順次進めていく予定である。

調査・研究から明らかになったことの一つは、北関東から東北にかけての真言宗三宝院松橋流の広がりは、醍醐寺乗琳院に住した俊海(応永頃)の活動を初発とすることである。醍醐寺三宝院内における諸流の正嫡争いの中、自流の勢力拡大を目論んだ俊海が、積極的に北関東(特に下野国)での活動を行ったことが、以後、16 世紀までの松橋流の広範囲における伝播につながったと考えられる。成果は、「関東元祖俊海法印」(『中世文学と寺院資料・聖教』竹林舎 2010 年刊行予定)に提出予定である。

また、調査・研究を進める間に、新たな書物群の存在が浮かび上がった。佛法紹隆寺、宝聚院で学問修養に励んでいた僧侶達が伝受した行法の次第書である。枡形本の体裁を持つこれらの書物は、元々僧侶「個人」の所有物であったがために、寺院の蔵書とは区別・別置されていたのである。佛法紹隆寺で約 2000 点、宝聚院で約 1000 点に及ぶ「行法次第書」には、僧侶達がその行法を「何時、何処で、誰から」学んだかが記されており、駿河国や安房国の寺院など新たな情報により、各寺院の学問形成を更なる広がりの中で考えることが可能となったのである。代表者は、「行法次第書」の調査・研究の意義と可

能性の一端を、「よぢり不動考」（『説話文学研究』44 号 説話文学会 2009 年 7 月）として提出した。また、平成 22-24 年度科学研究費補助金「中世後期真言宗寺院における学問形成についての基礎的研究」が採択され、本研究によって行った典籍の調査・研究の成果を発展させ、「行法次第書」の調査・研究を加えることによって、更に精緻な学問形成のあり方を明らかにすることを目的として、調査・研究を進めたいと考えている。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 1 件）
1. 渡邉匡一，よじり不動考，説話文学研究，44 号，168－178，査読有
〔学会発表〕（計 1 件）
1. 渡邉匡一，よじり不動考，説話文学会例会，2008,12,14,香川

６．研究組織
(1)研究代表者
渡邉　匡一（WATANABE KYOUICHI）
信州大学・人文学部・准教授
研究者番号：40306098